
■■■日本世代間交流協会ニュースレター 2015年4月号■■■

やわらかな日ざしが心地よく感じられる季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。定期刊行のニュースレター、4月号をお送りします。

【目次】

1. 活動報告
2. 活動予定
3. 出版物の案内
4. 「会員の声」
5. 「会員の声」募集
6. 次号（8月）の予定

【1 活動報告】

■大会長の交代のお知らせ■

来る5月に、長年にわたり協会長を務められた草野篤子会長が退任し、新しく杉啓以子氏(社会福祉法人 江東園)が会長に正式に就任されます。会長交代にあたり、旧新会長からそれぞれメッセージを頂きましたので掲載いたしましたので、ご高覧ください。

【草野篤子旧会長からのメッセージ】

日本世代間交流協会が発足してから、この5月で12年となります。協会が、多くの困難を潜り抜けて、ここまでたどり着けたのも、偏に皆様のご尽力とご貢献の賜物と、心から喜び感謝申し上げます。

思い起こせば、2003（平成15）年3月、および同年11月に、米国の世代間交流の研究・実践活動の第一人者であるサリー・ニューマン先生が来日され、講演会やシンポジウムの後に、「サリー先生を囲む会」が開かれたことがきっかけで、日本世代間交流協会の発足につながる”JOYFUL GENERATIONS”という研究会が結成され、日本世代間交流協会へと発展していきました。協会の目的としては、会員の熱い議論の結果、まず、第一に、世代間の諸問題について調査・研究を行うこと、第二に、世代間を結び付ける「コーディネー

ター」の養成を行うこととなりました。

早速、2004（平成 16）年 8 月には、「日本世代間交流協会第一回夏期セミナー」を、二日連続で開催し、その後、2005,2006 年にかけて、毎月、または隔月で講座を熱心に行いました。そういった熱い思いの中で、2006（平成 18）年 8 月 2 日から 5 日にかけて 4 日間、「世代間交流国際フォーラムー世代をつなぎ地域を再生するためにー」という国際集会とともに、「世代間交流についての国際研究集会」を、日本世代間交流協会と、マット・カプラン先生の所属する米国ペンシルヴァニア州立大学、当時、私が所属していた信州大学の共催で、早稲田大学の井深大記念ホール国際会議場で開催し、世界 7 か国、総参加者 300 名にのぼる参加を得て、熱心な報告や討論が交せられました。国際会議開催のための助成金は、日米の準備委員会の奔走で、幸い国際交流基金日米センター、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人日本万国博覧会記念機構から得ることができました。

国際会議の助成を得るプロセスで、任意団体では不十分ということが分かり、東京都知事から、特定非営利活動法人という法人資格を得ました。

国際会議の翌年 2007 年春には、「世代間交流アメリカ・スタディーツアー」を企画し、ツアー参加者を朝日新聞などによって公募し、30 数名の応募者の中から優れたレポートを提出した 5 名が日米の選考委員会による厳しい審査の結果選定されました。この企画も助成金を得て、参加者の費用負担のない米国東海岸、ハワイ・ホノルルにおける実践・理論研修が行われ、実り多いものとなりました。

2007（平成 19）年夏から、「夏期世代間交流コーディネーター養成講座」を 2 日間にわたって開催し、白梅学園大学での講義と東京都江戸川区の江東園での実習を 2014 年夏まで、全 8 回にわたって開催してきており、今年も 8 月 28 日（金）、29 日（土）に実施を予定しています。また、「秋期世代間交流コーディネーター養成講座」を、白梅学園大学や東村山市のころころの森を会場として、4 回にわたって実施しました。



【2007 年度世代間交流コーディネーター養成講座
『江東園』での実習風景】

その後、国際的には、ドイツ世代間交流スタディーツアー、スペイン世代間交流スタディーツアーと続き、日本でも是非、スタディーツアーを企画してほしいとの要望が強くなり、2009（平成 21）年 10 月に、ペンシルヴァニア州立大学、日本世代間交流協会の共催で企画、実施し、米国、台湾からの参加者を得ました。三重県桑名市で複合施設を実践されている多湖光宗先生のひかりの里、東京都江戸川区で、杉啓以子先生が実践

されている江東園の世代間交流、東京小平市にある白梅学園大学の学生が地域と協力して実施している世代間交流などに案内しました。

その後、全国各地における世代間交流が発展し、実践だけでなく、もっと理論的に世代間交流の基礎をしっかりと作り上げる必要があるのではないかという声が強まり、2010（平成 22）年に、日本世代間交流協会の姉妹団体としての日本世代間交流学会が創設されることとなりました。



**【2008 年度世代間交流コーディネーター養成講座
講師の先生方と受講生】**

この間にも、協会のニューズレターの季刊の発行や、機関誌『世代間交流—古いも若きも子どもも』が、第 7 号まで年 1 回、発行されています。その他にも、多くの論文や書物が会員によって出版されていますが、主に協会で行ったものとしては、『世代間交流効果—人間発達と共生社会づくりの視点から—』（2007 年、三学出版）、『世代間交流学の創造—無縁社会から多世代間交流型社会実現のために』（2010 年、あけび書房）、『多様化社会をつむぐ世代間交流—次世代への「いのち」の連鎖をつなぐ』（2012 年、三学出版）、『地域を元気にする世代間交流』（2013 年、公益財団法人社会教育協会）、『人を結び、未来を拓く世代間交流—世代間交流の理論と実践シリーズ第 1 巻』（2015 年、三学出版）などがあげられます。

また、2010（平成 22）年からは、白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科を卒業し、社会福祉士国家試験受験資格や介護福祉士受験資格を取得し、一定の世代間交流に関連した専門科目を受講した学生に、当協会から世代間交流コーディネーター資格を授与する制度が実施され、昨年 2014（平成 26）年の卒業生から、認定証を発行しています。昨年度は 6 名、本年度は 12 名の学生が、日本世代間交流協会から、世代間交流コーディネーター資格を授与されました。

以上、日本世代間交流協会の歩みについて、概要をまとめさせていただきました。会員、会友の更なるご支援、ご協力をえて、当協会がますます発展していきますように心から願っております。次期会長をお引き受けくださいました、杉啓以子先生にこれからの日本世代間交流協会の将来を託し、心からのエールをお送りしたいと思います。

（文責 草野篤子）

【杉啓以子新会長からのメッセージ】

2003年11月の発足から12年間、日本世代間交流協会会長として数々の活動を行ってこられた草野篤子会長に心からの感謝を申し上げます。

後任として会長に就任することとなり、これまでの会の発足の経緯と歴史を思い返す中で改めて責任の重さを感じております。

草野前会長とのお付き合いは、社会福祉法人江東園がお年寄りと子どもの「幼老統合・複合施設」として内外に紹介された1987年（昭和62年）まもなくの頃からであったと思います。

2006年（平成16年）8月、草野前会長のご努力により早稲田大学で開催された「世代間交流フ国際フォーラム」は、日本国内はもとより海外の研究者や実践者が結集し「世代間交流」は大きな広がりを得ました。

「世代間交流フォーラム」に関わられた皆さまと出会い「世代間交流の必要性」を共有したことは、現在の私にとって貴重な財産となりました。

《平成27年度の新会長方針及び事業運営の柱》

方針

「日本世代間交流協会」の本来的な存在意義を再確認すると共に、中長期及び短期の方針を確立してまいります。

新会員獲得にむけて、入会者が長く会員として継続できるよう会員の声を重視した事業を行ってまいります。

そのために、事務局機能を強化してまいります。

事業

平成27年度事業は前年度事業を踏襲しつつ以下の事業を行い運営をしてまいります。

- 1) 日本世代間交流協会の事務局機能の強化
- 2) 「世代間交流コーディネーター養成講座」受講者増に向けたPRの強化
※養成講座修了者によるフォローアップ研修の検討
- 3) 世代間交流実践事例の収集（日本・外国）
- 4) 世代間交流実践者の発表の場（学会と協力）
- 5) 日本及び諸外国の世代間交流セミナー等への参加と報告
- 6) 季刊「ニューズレター」の発刊
- 7) その他

理事・監事の皆さまはじめ、会員の皆さまそして日本世代間交流学会役員、会員の皆さまと共に「特定非営利団体 日本世代間交流協会」の発展に向けて今後ともお力添えとご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（文責 杉啓以子）

■ 日本世代間交流学会誌 Vol15. 編集委員会より ■

本年も多くの会員の方々からご投稿いただき、編集に携わる者としてたいへん感謝をいたしております。あわせて、お忙しい中、投稿論文の査読にご協力くださった多くの先生方には厚くお礼を申し上げます。現在は、投稿者の皆様にご提出いただいた原稿の査読作業を行っております。

詳細は、下記のHPをご覧ください。

⇒ <http://www.jsis.jp/journal.html>

【2 活動予定】

■ ジェネレーションズ・ユナイテッド国際大会の開催 ■

2年に1度米国ワシントンD.C.で開催されていたジェネレーションズ・ユナイテッドの国際大会が、本年7月21日から24日にかけての大会は、ハワイで開催されます。詳細は、下記のHPをご覧ください。

⇒ <http://www.gu.org/RESOURCES/Conference.aspx>

■ 日本世代間交流学会 第5回全国大会 ■

日本世代間交流学会 第5回全国大会が、以下の要領で開催されます。今大会では、「世代を超えて -世代間交流と死生観-」をテーマに研究発表、学術的ならびに施策的側面からシンポジウムを行います。

日時： 2015年10月3日（土）

場所： 追手門学院 大阪城スクエア（於大阪府大阪市）

交通機関（電車で）

●京阪電車「天満橋駅」駅下車

→東出口14番より徒歩7分

●大阪市営地下鉄「天満橋駅」駅下車

→1号出口より東へ7分

詳細は、下記の当学会ホームページにて、随時更新されます。

⇒<http://www.jsis.jp/news141028.html>

皆様ふるってご参加下さい。

■日本老年社会科学会 若手の会のご案内 ■

日本老年社会科学会では、6月13日(土)に老年学系若手合同研究会(以下、若手の会)を開催いたします。若手の会は、学部生・大学院生だけでなく、卒業・修了・満期退学5年程度までの方を対象にしています。異なる分野の若手研究者が集い、ともに学ぶ場を設けることを目指しています。ご関心がございましたら皆様ふるってご参加ください。

【企画内容】

今年度は、老年学に関する3つのセッションを設定します。
テーマは「高齢者と地域社会」(コメンテーター：斉藤雅茂先生)、
「福祉・介護と生活」(コメンテーター：荒井浩道先生)、「高齢期の心と体の健康」(西田裕紀子先生)です。セッションごとに研究報告や研究計画に関する発表を最大3題ずつ募集します。発表者一人の持ち時間は約30分(発表10分、議論20分)です。

【開催日時】

2015年6月13日(土) 17:30~19:30

※研究会終了後、会場にて懇親会を予定しております。

【開催会場】

パシフィコ横浜内の会議室5階 511・512

※学会会場と同一です。

【申込】

申込期限 2015年4月30日(木) 18:00

申込・問い合わせ先 young.gero2015@gmail.com

詳細は、下記の当学会ホームページにて、随時更新されます。
⇒<https://sites.google.com/site/wakatenokai2015/sanka-1>

【3 出版物の案内】

■『世代間交流—老いも若きも子どもも—』第14号、特定非営利活動法人日本世代間交流協会第7号の発行■

当協会の定期刊行物であるこの機関誌は、国立国会図書館の定期刊行物の指定を受けております。

■ 地域を元気にする世代間交流 ■

倉岡正高 編著 草野篤子、藤原佳典、杉啓以子ほか著

公益財団法人社会教育協会、4月中旬発行 (900円)

世代間交流の意義、研究方法および実践事例について、分かりやすく解説した入門書となっております。世代間交流の研究者や実践家がそれぞれ豊富な経験と蓄積された研究成果をもとに執筆いたしました。なるべく多くの方に読んで頂きたい1冊です。

■ 『人を結び、未来を拓く世代間交流—世代間交流の理論と実践シリーズ1』 ■

草野篤子・溝邊和也・内田勇人・安永正史・山之口俊子編著『人を結び、未来を拓く世代間交流—世代間交流の理論と実践シリーズ1』（三学出版）が4月3日に出版されました。多分野にわたる論文が集まり、とても内容豊富なものとなりましたので、皆様、是非ご覧になってください。

【4 「会員の声」】

「会員の声」ということで、皆さまにご応募を呼びかけています。皆様のご意見や体験談をニュースレターに掲載したいと思っておりますので、世代間交流について思うこと、当協会について感じることなど、ご意見を以下のアドレスにお寄せ下さい。

[yhoyho05\[at\]tmig.or.jp](mailto:yhoyho05[at]tmig.or.jp) ([at]を@に変更してください)

【5 その他】

「会員の声」ということで、皆さまにご応募を呼びかけています。皆様のご意見や体験談・エッセー・詩・俳句などを、ニュースレターに掲載したいと思っておりますので、世代間交流について思うこと、当協会について感じることなど、どのようなことでも結構ですので、ご意見を以下のアドレスにお寄せ下さい。本号では草野篤子会長および杉啓以子次期会長の協力のもとで、原稿及び資料写真を収集することができました。心より感謝申し上げます。今後ともご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

【6 次号（8月）の予定】

1. 活動報告
2. 活動予定
3. 会員の声
4. その他

【編集後記】

今月のニュースレターは、いかがでしたでしょうか。
次号も、どうぞよろしく願いいたします。

ご返信は、[yhoyho05\[at\]tmig.or.jp](mailto:yhoyho05[at]tmig.or.jp) ([at]を@に変更してください) をお願いします